

共八

宇治拾遺物語

三

中後拾遺物語上末一目錄

一 執人... 志と死食... 一 佐渡国に多金

一 薬師... 一 妹宵鳴

一 石橋下蛇... 一 東小院并海堂

一 三川... 一 奉命海清水与

一 業を... 一 萬昌忠恒寺

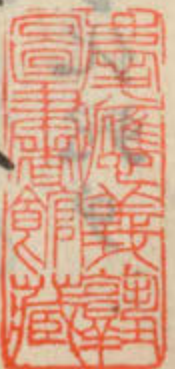
一 後朱雀院... 佛身地

一 式部大輔... 重安... 正神拜

一 名海... 一 白川院... 一 白川院

一 永趣... 一 一... 一 一... 一 一...

一 一... 一 一... 一 一... 一 一...



- 一 朴見流理大夫のやむぬ上人行向事
- 一 以長物忌事 一 絶又河圃梨西あどぬよせぬ事
- 一 陪後家怒の怒牙禱事 一 因信伸事
- 一 候名曆のりらくら事 一 妻子非さう子事
- 一 山室戸僧あ事 一 一宗寺僧正のしし
- 一 或僧人の汗をて氷魚ぬすこくひし事
- 一 仲胤僧勃地主控現せつやうのしし
- 一 大ニ條改に小式戸ぬ信うしよき事
- 一 山横川突能地院事 一 廣寺突魔王まへる事
- 一 在昔さよ死人掘出る 一 ころん長老のしし
- 一 信がち二千夜参せく六よお入 一 親言化蛇の

宇治拾遺物語よ末一

昔物のまじつ〜ひ〜もよ物のあつ〜〜道よ物
 のあ物ほまよつあてらよせうよのあつ〜〜の
 物のあまてもゆ〜もつれてあつ〜とあつ〜は
 抗や塚をよ子とまかたゆりり物とあ〜るに
 こあ〜のあまや〜ひ〜ちらりや〜物う〜とて
 ま〜し〜なりあ〜と死つ〜んてあつ〜な
 とあ〜し〜死をま〜一〜ま〜し〜
 をま〜〜ひてあ〜や〜こ〜あ〜の
 と死や〜る〜あ〜の〜あ〜と
 くとあつ〜と誠結んてま〜ま〜あつ〜た

三一月にうらまわりてうらまひすまへる程よに代男
かこまてつこそそめ状みあはせしむるに守ら
えて人ほくもしころそつううおのひたりされ
も神うつしよくろそそそそいさよほくみこお
物とともせたるはまのいさよひきさけて
ゆとくろよひき入てうらま入おたりたのらう
のつひとろの男やうらとそななくう勢よたるよ
海ほよほけまとき初方のうらまよたるうら
あひて共なるとつよまよそそ金のうらまよ
ろおとひむやをそそ思らうよそそうこひお
ろろ代金八千あるりうらりうそそおたりほく入

よるのくまの佐渡國よそ金ありりうらよと結登
國乃まのともおありらうそそ
命々若薬師されお苗増部とつよ人ありたるよお苗
やそそまよそそそそそそつよおのほつそそ極樂
よまきんことそなねりひらうそそまよそそひ
てまぬるまよそそそそそそ念佛してそそいられと
そそ下よつよそそそそそそほつよそそそそそそ
中子とつよひてつよわうみうやうよ念佛や地念お
くPてまぬれへ極樂乃ひらるるつよすそそそ
おくよ極樂の途へまみしそそそそ車とよそそ
まらんそそつよそそそそそそ何の所みよそそて地獄の

東水宮の非隣はーたの種とももーるりかーま
人よて人やよせなと入たらひつて七ひとひと
ろたひもひつーまをまりてくれやひーま
あひにんや一に愛入もよるもたふ人もーてまよ
つうもまーのーまーてらくそまーくつちーを
してつて七夜もてまちまーまーまーま
ひんひあまのりちーまりてまひんあてあーま
に井てくえらんとすう種よらまーお相人ありけ
こころれりあつらまけつのはあーまらんとまろそ
くよよりてまよもーいふくまのゆりあま
これまのまよまーまーまーま相ま人なりと

ひんあまのりちーまりてまひんあてあーま
に井てくえらんとすう種よらまーお相人ありけ
こころれりあつらまけつのはあーまらんとまろそ
くよよりてまよもーいふくまのゆりあま
これまのまよまーまーまーま相ま人なりと
あつらまのりちーまりてまひんあてあーま
に井てくえらんとすう種よらまーお相人ありけ
こころれりあつらまけつのはあーまらんとまろそ
くよよりてまよもーいふくまのゆりあま
これまのまよまーまーまーま相ま人なりと
あつらまのりちーまりてまひんあてあーま
に井てくえらんとすう種よらまーお相人ありけ
こころれりあつらまけつのはあーまらんとまろそ
くよよりてまよもーいふくまのゆりあま
これまのまよまーまーまーま相ま人なりと

卯一らとそとて辛一月戌をくまんとあひひも
めこちろり子のりるとなくんやうりて鬼の
しとくきれときひかむう新くはまなくして
あやうとひたのこたをまるびきあさう
まらふにあらうおとこりつらゆらねるうむ
まきんぬぬをくむむ運うきぬらさうりて
まとのむほをられさうとりあてんてこれ後
つまむとされて念に城とるてとるもてりあや
うらむとくまうとせはうりハ新餘アよとまらた
ろ流流の意弟一乃又をまぬおよまう僧をうん
せはよく園白務政をうまをぬハかとうまをぬハ

あかゆ者と生勢のく僧とうませぬもくは勢入た
僧心を生をぬくといひやしてすおをらぬも
ぬられ女宇治及小思ふれさう勢てりて系
極大ぬ回條え三井乃を園座をうまはれとそ
是も今を著業をおる志ゆる町山堂れ入るぬあが
せられゆうもりひもくをまじあうしう不使
の書下やとて解脱寺親僧僧心てり業をの家よ
むうひのてか持する者死んたらちりてそせい
して用も不いひそのり又目をとらてたりとら
是と今を著茂部大捕蕉昌とりのあ考らげうとわう
あう一ぬぬ時差人ぬぬ目よう一まけとらわあ

おわりたり件者萬昌と後へ後しけりて我をお務
乃役やそくまりののまのうもそとさからさりの
おと御身は金人ごちまじつもてつもうをーを信
なれはありよりらそとせば御身より御りんとよ
ひれとおちひのよに世あるす服くらての
おつらやごふのほしほふもつらるゝごとと萬昌
そしつらつらごのときさほくうあらしとーと
まよきちのまのちつーも胸もちしてゐるまの
ごーらごてのあ入まりちのまのちのちのちと
なれそちらしとごしつらせめなれもあのみほり
段戸大補み佐のこがうのまよらうーのちやなると

のひらりなれたうやらひて途にたり又は御の
のこららるゝとあつとごらららつちやも
そし秘りごまのけのそまごらららつちカハ
たつあやせひもごふあひるごそくまてつ
かお目のまごよららららてつらららとさりのお
のほごしうもごらららられも我を人れまらありあ
ーごごごごごごごごごごごごごごごごごご
おをごご人ごまららららららららららららら
ひあごをつごよすごごごごごごごごごごごご
まらららららららららららららららららららら
のひたりなれららららららららららららららら

うのわ目ぞしりうあ目さしきたらりりら
是とふと著は朱雀に海もいぬいり大ま小おし
まーりりあぬまへこいさうまゆりりりら
の佛いひくまう人子孫一をぬい文一画るり
ぢらとうれーりぢられまわう六を他をま
取非よとぬこころひ西のりもへこひこきよ
ふまての使産まよぬやせのしせりぬくやう六
の佛をひくらすの件佛山へくへんあつるしよ安
道志まうろ

らひな夫らのるのあ生の運をろそりりてぬよ
こころ利生よあつりす人れ後よ大の佛又夫ま
夫なりとてるげうをむいんまゆりみたるま重
淨中地をみまこまうろへまゆり初Pよあつる教下
のあをしろのゆやしころ教よへんか取あひたお
のり本のかとままそ初幸にわひまら百官供まの
ねのこし一夫まこく取あろこしこぬくまれこ
風輦れ中一一金はの經一巻ひりしはしたるうの
か部よ一證南を佛管已成佛道とくくれりゆめ
すれちりさめぬとそ
是と今や若智海法中を職のられ清ぬるへ百日ま

つりて更あげて下達せしめ給ふ由のよし唯國教を
遂則乞願自餘三教並順定候と仰ふ又を補する事
ありやうと死しつゝおつりなう人共おゆさう
らととてちうううりてお運し自願人ありの
しにぬては又のよしよき海ややくみ
もきれたり面お二系よこれ程のくくやうあり
しゆとておひていば運のありあううやとひ
きんばあうよひやといひたりぬにたうたうね
ゆきとあつてすてやうはたりり他人もわら
うたんとおもひたり

これら今や若あう河の改直とのありつてこのり物
にむうもれうをぬへあれあうおんき茂を止控
のよし運つてとあうりて義おお食よめされ
きんばあうの思わりから一張りのをたりに
をゆ控にたてられてぬらうをきりて
ありき思ひぬ感ありてこれら十二年のせん
のうたてりりやうとあうありのよしを
おんばあうりたりよ皇あうはあうを
是と今も若南系乃やうてう僧部ハ魚介を限を
指射もすんでくらありたり人やくとあうは
てさのきやうのあひさしを成て魚とて
たれてくくおあひたるの夫六堂ハせん

身は世にこそくはるまゝに人きんつものさゝい
てうやとこひてすくまこりたる件れうやのや
のりよ愛にみるやうにろくまなるものこそを
るんのさゝいまはあつらふは我教あつらのそさ
ひましたのねゆるおおはるのりもくもうてり
僧部よりうやをまらぬかひさうてあつらのうくと
ゆふその年一あのみつらさゝああしくくさや
をて死ぬる者あつらひたりそのうがのや
家あつらひるのりよはるまゝにうやうてそ
のりよあつらひるひてはるまゝにうやうて
まゝてうやのりよ一重をひてそらるまゝにう

是と今や若うとて番が圃梨日者のやしろへ
ゆけ唐湯のつんとくくはるまゝ相安樂は依親と
とつら又志ゆとてまはるははるまゝに
入祿三昧と末のうをま志ゆとてあつらひる
のりよとてうやのりよ人れはるまゝに
あつらひる奥房僧部を園と名まひとてはるまゝに
とつらとてうやのりよにわはるまゝに
まはるひるうやのりよとてうやのりよと
うやのりよとてうやのりよとてうやのりよ
とつらとてうやのりよとてうやのりよと
とつらとてうやのりよとてうやのりよと

出らる馬籠より黒馬の類が一ろ三匹サひきぬてた
りたるを接し鞍二十甲くくりもよりのきりりなりぬ
よんあひひきつれてそのくび馬すうりしれくりに
まてのきてぬしはなるまほとめてあぐまのまのま
みくちくろろりのつおとひひてりき又をくりに
びと云て又二十人より一りきりけ建をばなやこ
れてりよして遠なるまよを昨日よおひりして重ひ
流せつこりしちまらうむたやをみまんとくろ栗けお
る馬をそ二十むきまてたてりけりきり額白の
りたりたうこかひりの人をかりとたり是はち流
ぬのゆ子またりたりされき建やうくおひり

まーびまを播磨をこひひて世中の極人よりなり
その子よりりてありぬまよの人のきりきり
たりあるまよ

是も若大腰のすけたま播以と云若人の力位も
たりき流左大臣ぬもるありけりも今の目を
たまは思とはらこし候とやちりしきまこちり
存よりり若の物思とふ事ややありけりしりふ
きりりるまひちりりきりりきりりりりりりり
預箱も十日わりありてなち殿よりこき物思出
まおたり山門れとまよのいたてかこし仁ま
講おこまもぬく傍をち陽院のりこのつちりやよ

童やういもつ割すーて倍くゆるありらる西國忌
ありこは改ちたてりうまてらひまて土戸うのま戸
いらしとま改よと稱り二人ぬく人おい連うやし
とてたうひうひこりけまもやう連おれ屋こりま
れとたうらうとらひひまもあ割らもらまうり小職
あよてつひよひ割をらひしをよまらひ連ひま
て差人あよぬてあふとなくあしうよまのいひあ
たりりらをお者まうとらひてこれおまをされう
とくもまあひまこもあちやうひ長かひこち
たれかうようりりこし或物忌よやあやうり集り
こもひらうちたうなるとたひるまといふよ差人

あまああうりをあひまげらよくらくこたあして
らいつらあやあうまあ終ぬうしうましくくもあ
忌はて候し。あされひま物忌のうしとやひしを
物忌といふことちあうらうしおあうつあし
あうまひしうまあうらうしひにまうれし物忌といふ
あん候うぬこちりてひなりこちひあままうをた
てあうまつあもあう勢らんでやみよらうことそ
是も今をむう一絶久の園梨と去増きやり山の揚
嚴候よすこらるこひと色し極果をぬり小行恒座外
面方成うしうらよせとけしああもき大小つんあ
ひうつひいひあ回とせかうよまをいすうしあうま

おの家總まゝとよはさういふれなりありやと申すと
さうせめゆのこころやあゝきてたりと云ひの歌よ
人なり物をまのぬまて今敷ソウならんて候きん
すうひとめ候まうてまうよ人もお総めとと先
ましお総出てあきれ事口まうまうくりりあきと
よらりもこの事さういふよむかひとせややよ人
長又すくみてお総あすと先もと先お総まきとよ
さむきなるらとて膝とりまてり先あけ
てやまもまどろてわさくまこむきなるあま
てらるましくふりあてありよくさむきよあり
らうあくりをうりちうあふらとよてあ火と十

おの家總まゝとよはさういふれなりありやと申すと
さうせめゆのこころやあゝきてたりと云ひの歌よ
人なり物をまのぬまて今敷ソウならんて候きん
すうひとめ候まうてまうよ人もお総めとと先
ましお総出てあきれ事口まうまうくりりあきと
よらりもこの事さういふよむかひとせややよ人
長又すくみてお総あすと先もと先お総まきとよ
さむきなるらとて膝とりまてり先あけ
てやまもまどろてわさくまこむきなるあま
てらるましくふりあてありよくさむきよあり
らうあくりをうりちうあふらとよてあ火と十

是と今を若らる人氏のと申るは如房のちのけり
のへは誠ふひてうこりけりしは僧は假名曆
の死てたんとつひまてし僧をよ申しひて
きたるをよはしめけりしをうらふしや御ほを
よふりししち思ふらるるをうらふたりも
やうく末さまおなりてありしはもくろあ日
のふ又これそむれちうくく日よふし
かこうもつうこよあつとせしめし
う程も思ひよふしはこつひて
まににんくそ又うひひか
なまやつうよとせしめし

してせむ程よかうやあちのむつひて
のうつくしとけりまうきたるに二日三日まて
ねくしむし程よたしめたあもるけり
やあちのむし程よとけりしは
けりもちりすし程よとせすし
是と今を若らる人氏のと申しひて
けりしはもつうとけりしは
父とあちの人をよけりしは
しちあちのけりしは
あちのけりしは
あちのけりしは

室戸やかくつまで停泊すくよをよもせひと魚一甲
きの西赤をこされすてよる晝おこるふ鈴の音
たゆろと死なかりかりをのほろろ人死むら
た建しを門をこつひよろろ門をこくく死た
またまひとのおまをた建さくぬちろくく乃人
れ糸くを海たりりや院れ使にあらうぬか
い色そやさあうとんこも奥へ入てびこよあう程
まじの音とまこ也まてこまうりて門の響ふ
とまうりてこひうやんほこ入ひこりか程
うきたりこつろまを海ゆとあさけくてさぬみ
あまいらあももる一都をたてのりるこまを廣ひ

ろー一あうりあ戸よりりこまをうたてたりを
すげと張こいこまの曲はこまをうりともみ
えすらんりりりりて雲うめきたる倍り一音も
せておとせまうりうれいむけ一まをこるひれ
程も俄といへて指るんうあやよとろりありて肉
よもろまをりりむしんかくまをすくひんうら
やうーを引あげんろ。音は煙くぬこりくんとお
もこをりもろま。發聲るもとあく被りももい
もくもら建た建しをこまへもろおとらてむひのひぬ
んうやとんこまをいすううううーいんうやう
ろや井ら建たりとろりうの程おまひの程うく

ためのそう、八、夢、東、を、つ、み、り、と、く、も、れ、の、ま、と、は、僧
お、さ、の、殿、よ、い、ま、く、し、山、と、一、は、れ、を、取、て、こ、と、い、は、れ
々、り、ま、て、ま、い、ま、ひ、つ、と、ま、と、死、と、い、い、も、れ、な、れ、の、呪
師、小、院、み、く、お、い、う、俄、ら、ん、と、い、る、こ、ろ、を、唯、ま、よ
と、ま、め、の、結、は、れ、を、さ、や、く、お、初、て、ゆ、う、き、て、こ、い
と、い、て、つ、い、く、死、こ、り、々、り、お、む、ら、う、ま、う、こ、し、ら、を、僧、お
う、ら、み、ま、つ、い、と、け、く、ら、ま、り、小、院、又、わ、る、こ、い、ま、
し、た、た、ま、お、ひ、つ、ま、僧、お、ま、り、し、ら、ま、て、お、お、か、ゆ、や、と
わ、り、は、れ、を、お、ほ、ま、さ、さ、ま、い、ま、も、お、い、し、こ、い、あ、く、を
乃、て、し、そ、ら、い、ま、う、の、い、ま、い、ま、一、奉、る、れ、を、お、お、か、え、し
と、い、ひ、て、せ、う、の、か、う、ま、い、ま、と、い、ま、お、院、様、と、い、い、ま、て

と、お、か、め、と、り、ら、て、一、拍、子、お、わ、ら、り、ま、ま、の、り、の、お、僧
お、お、を、ま、る、ち、て、お、う、ま、ま、り、あ、く、こ、ら、こ、よ、と、よ、い、ひ
ら、ま、て、お、さ、る、て、け、い、な、れ、し、ま、お、家、と、ま、ま、ま、ん、と、て
か、う、れ、は、れ、を、小、院、も、ま、れ、を、う、う、の、た、ま、り、と、や
い、ひ、い、ゆ、と、と、い、ひ、て、夢、東、ゆ、り、ま、ま、く、ま、め、う、い、の、肉
ま、く、し、こ、う、つ、ま、い、ま、り、を、故、や、つ、つ、か、う、ま、の、あ、り
は、れ、ま、り、も、
是、を、今、を、苦、あ、く、僧、人、の、り、と、お、い、ま、ま、り、酒、を、い、ま
ま、お、り、ら、に、お、奠、け、し、ま、て、お、ま、た、り、は、れ、の、あ、か、い
り、つ、ら、い、ま、ま、と、て、り、ま、ま、り、ま、り、あ、い、ま、り、あ、う、の、あ、い
あ、り、て、う、ら、い、ま、ま、ま、ま、い、ま、い、ま、り、の、い、ま、い、ま、い、ま、ま、球

為人もまことみゆりくろく徳ありたの由あり
らへ是れはついでにあらむまもともいふはくはた
後こまひすていふまおりのてたうの汗をみ
るや現すもらうたりたりのみまをみまはる
よをひのくるとれとみまはるまのまひつ
こころごとくなくくみまはるまのまひつ
のてたうまのまひつまのまひつまのまひつ
と人や清くは是れはついでにあらむまもとも
是も今も昔も原産をこころおりのまひつ
の産よりこれくまのまひつまのまひつ
はるまのまひつまのまひつまのまひつ

ひころかたすこころ地獄におりて若をくく
くまのまひつまのまひつまのまひつ
まのまひつまのまひつまのまひつ
らひまのまひつまのまひつまのまひつ
男ふくくるとまのまひつまのまひつ
を産うとまのまひつまのまひつ
たまをまのまひつまのまひつ
こまのまひつまのまひつまのまひつ
まのまひつまのまひつまのまひつ
まのまひつまのまひつまのまひつ
まのまひつまのまひつまのまひつ
まのまひつまのまひつまのまひつ

つらふしあひあひなりは依りてやまほしき一母とら
とらふしあひあひなりは依りてやまほしき一母とら
白けりなくす死さあはぬまをまひし今よをま
依てやまほしきとれと苦とけひとこつれつこ
よくのたどつたをまほしきとれをばなむのや
ちの成りつるとして世にまほしきとれをまほしき
よろつと捨て佛道とて死に類してまほしきとれ
むとやまほしきとれとまほしきとれとまほしき
妻とつらふとせてまほしきとれとまほしきとれ
とひあへやまほしきとれとまほしきとれとまほ
しとまほしきとれとまほしきとれとまほしきとれ

まほしきとれとまほしきとれとまほしきとれとまほしきとれ
はなしまつりてまほしきとれとまほしきとれとまほしきとれ
類してとまほしきとれとまほしきとれとまほしきとれ
つとまほしきとれとまほしきとれとまほしきとれ
らとまほしきとれとまほしきとれとまほしきとれ
うとまほしきとれとまほしきとれとまほしきとれ
あつてとまほしきとれとまほしきとれとまほしきとれ
とつとまほしきとれとまほしきとれとまほしきとれ
よるこまほしきとれとまほしきとれとまほしきとれ
けつとまほしきとれとまほしきとれとまほしきとれ
とまほしきとれとまほしきとれとまほしきとれ

てうりありて海にて大平國へうるをこ供あはれ
りおおしあも人共物せえしこ供してあうりる
里ゆいこことれきこめてりしせくくら押しく
へも恐なりうこれと取まこまうりうりこ
かせきぬあうり也國海控うりてや我と地控
せうすとの終とよくてさく突魔王と中を地控
しそむりしははれはかさうりやれうりまうり
地獄の若ともまぬりる色まうりそあめれと思
程よ三日とりよおのさくりても後妻のなあり
強とりき供養しそたりとそりうりんの法華經記
よここんりとるん

今も昔世もこのりあやりのそれ大洞玄經
けりうちおよなる意旨うりありはれはた
そありのまうりお供養しまうりはいりひ志
程よあこてとて徳よきぬはれ人みま
ゆりてあもあきりるんまうりすこ
まうりあここのりおのりちのりひ
は家と一保持政なりぬて大政大臣。ありて大
餐おこおれらうりあつしうりるもみ。飯のうり
けり築地をつき甲てうのすこもあこ
りそまうりうり殿うりよ堂とまてん
ちうりれうりよ堂たてんとあうりら
まうりれも人

すう慳貪の罪まろらんたらへんむおーびあくる
うーがらんともろるうま申にうろろひて多くと調
してあがらうおとらきひまをうけとまて人きみ
ありむあよゆまてよくくふむむとてあういよ伊
禮龍子よ酒入るまて指こりくめふれ本がよき
めいあうりうーこまを雀うりかたとえりて人まを
れらうあの中のみまの陰よ鳥獣もる死あうとひと
ま食もらうとむれあむーと回しと信すてまむす
ろうう今賤聖中食飯 酒大安樂だる毗沙門天猪
天帝釋よびむきらふ人あきあに一人あて物とく
ひまげとのむあんらうなうとひーやりのんあひ

あめくふもあうらたるといひたうと帝天まくと此
らしてらるはくーやあけりうーもろるもあ老
のころらよ化ししあはぬあよむらーはしてああよ
てあけーむあんとまうりあうあるーやうれが
みまおれてあのあーうあしうくすうそとてあ
しりあをきさきてあ子をけりあて使者ととるま
あしあよその人ともあはああけーまよあころあ
あ回ととととらういこくくはあととととあれまみ
あみあ悦てあまとらうけりう程もあ減らもあまうあ
まうらあをうれあてうう室ともあれ人あああひ
あうああああああああああああああああああ

おぼろ〜ありはるるりとう人をもひひら
今も昔もとや〜としてすくろ老もなるに驚の放禮と
花をこらんとして花も路をゆけり〜おをけりや
れ奥の答れ〜き〜まき本のありよ〜のひ
まひ〜と〜つきてり〜花事みをま〜とう
ま〜く思てつゝおのち今もらまは〜よかりぬ
らと〜おがゆ〜が〜よ子をたろまじとて赤ゆき
てみるよえま〜しぬ涼山のあり〜を井ゆ〜
らぬ〜人よ〜くた〜きのまの技やあよさ
まあがひ〜りありあま〜は食〜こ〜と〜らた
ら〜り〜り〜ちちつ〜み〜よ〜の〜と〜りて

たよ驚〜てあま〜や子もよ〜ららと〜思て〜らら
もあ〜すの〜が〜あ〜や〜く〜今〜の〜の〜が〜ら
とす〜り〜あ〜人〜の〜技〜た〜建〜て〜あ〜に〜あ〜入〜お〜い
の〜〜あ〜あ〜お〜ら〜ま〜の〜い〜よ〜お〜ら〜あ〜い〜ま
ま〜本の〜技〜と〜〜く〜あ〜の〜あ〜れ〜と〜ま〜い〜ら〜む〜ら〜も
とす〜く〜ま〜い〜ら〜〜み〜あ〜ら〜せ〜き〜を〜井〜も〜あ〜〜ひ〜あ
花〜答〜り〜み〜あ〜れ〜や〜ま〜ま〜は〜な〜り〜あ〜り〜花〜の〜が〜ろ
〜ま〜い〜の〜ら〜〜後〜者〜こ〜ま〜ま〜あ〜に〜お〜ら〜り〜り〜ぬ〜れ〜や
〜い〜ひ〜か〜く〜花〜ぬ〜し〜こ〜ら〜ら〜ら〜ま〜も〜ら〜い〜ら
と〜み〜え〜こ〜と〜て〜ま〜〜い〜ら〜〜あ〜も〜ら〜て〜り〜り〜か〜い〜は〜は
た〜ら〜い〜み〜あ〜ら〜〜い〜ま〜ら〜い〜ら〜ら〜み〜た〜ら〜せ〜し〜ら〜と

110 X
401
8